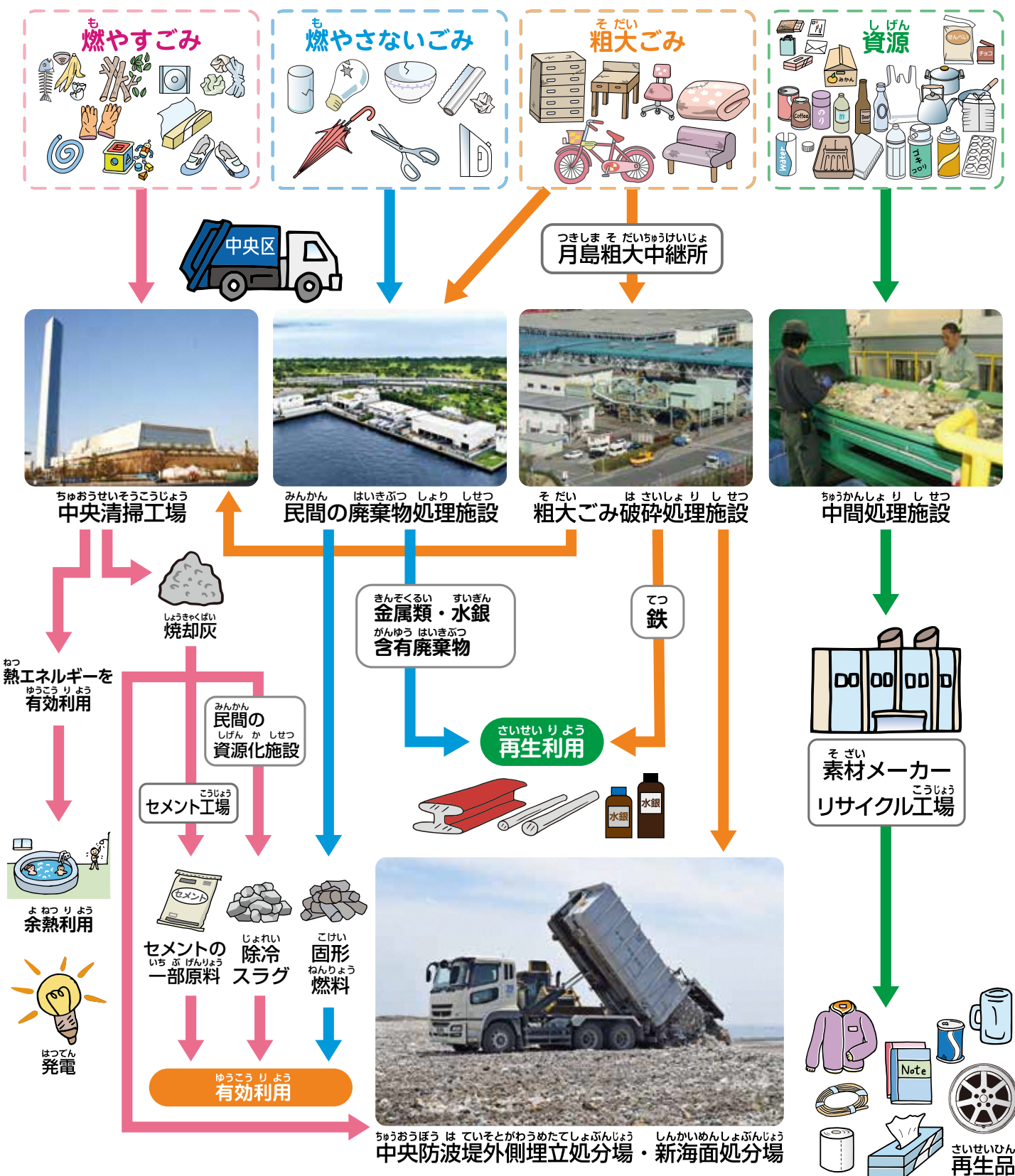


みなさんの出したごみや資源は、どこに行き、どのように処理されているか
見てみましょう！



ごみと資源では、処理する方法がそれぞれちがうため、きちんと分ける必要があります。

写真提供：東京二十三区清掃一部事務組合

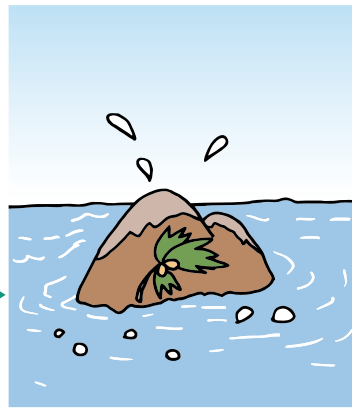
地球の資源を使い、わたしたちの生活はとても便利になりました。
そして、いらなくなったものは「ごみ」としてたくさん捨ててきました。
便利になった一方で、今、いろいろな問題が起きています。



ごみが地球の環境をこわす!?

ものを燃やすと「二酸化炭素」というガスが出ます。「二酸化炭素」が地球上に
たくさん増えると、地球が暖かくなりすぎて、環境に大きな影響が出ます。
これを“地球温暖化”といいます。

海面上昇



砂漠化

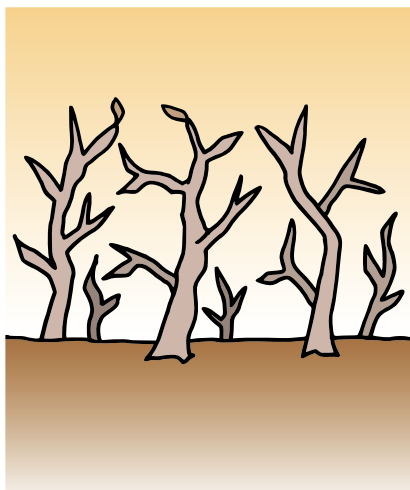


→ 北極や南極の氷がとけて、海面が上昇し陸地が海に沈む。

→ 異常気象が起きやすくなる。



→ 作物が育たなくなる。



→ 森林の減少



→ 急激な季候の変化で、
絶滅する動植物が出てくる。

ごみを減らすことは、燃やすものが減り、発生する二酸化炭素も減らせるので、
地球にも優しいことなのです。

一人1日59gのごみ減量を目指す!

中央区では、区民やお店・会社のごみ減量とリサイクルを進めていくための目標などを示した計画をつくっています。

この中で、令和12(2030)年度には、区民一人1日あたりのごみ量を令和元(2019)年度より約59g減らすことを目標にしています。

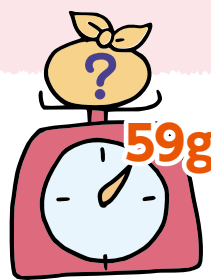
たとえば、区民一人が1日59gの「ごみ」を減らすことができれば…



令和6年1月1日現在の人口は176,835人なので、1日59g減量できると、 $59g \times 176,835 \text{人} \times 365 \text{日} = \text{約 } 3,808 \text{トンの減量}$ になります。

59gとはどのくらいでしょうか?

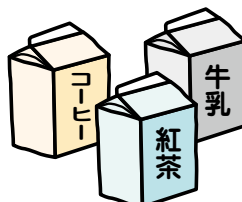
身近な59gを調べて、
“ごみを出さない工夫”を考えてみましょう!!



ピーマン：2個



給食のご飯：茶碗1/3杯



500mLの紙パック：3パック



ティッシュ箱：2箱

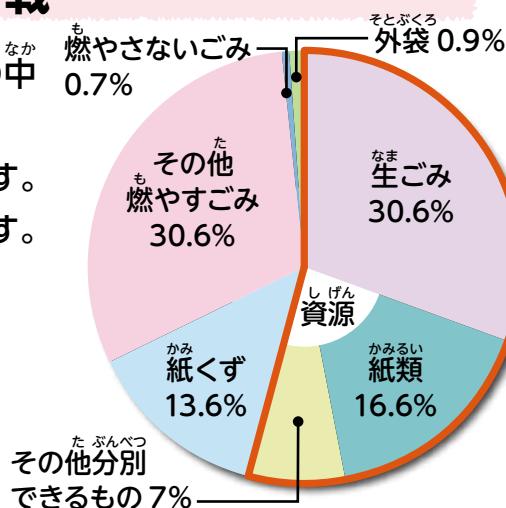
※あくまでも目安です。大きさや素材によっては、この重さになりません。

「捨てる前のもうひと工夫」でごみ減量作戦

令和元年度に中央区では、みなさんの家庭から出たごみの中身について、調査を行いました。

右のグラフは、「燃やすごみ」として出されたものの中身です。燃やすごみのうち、一番多く出されているのが「生ごみ」です。また、資源のうち「紙類」が半分以上を占めています。

「生ごみ」と「資源となる紙類」を減らすことはできないでしょうか?



「もうひとしぼり」で生ごみ減量作戦

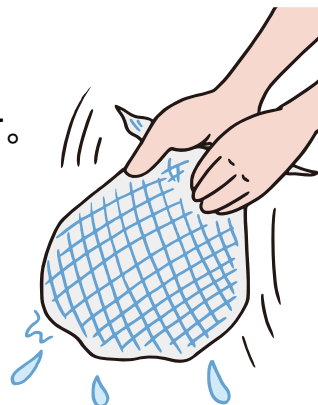
生ごみには多くの水分が含まれており、水分が多いとくさりやすく、臭いもあり、ごみ出しも重くて大変です。

また、清掃工場で焼却するときに燃えにくい！という問題もあります。

そこで、生ごみの「ひとしぼり」です。みなさんの家庭で1日1回

生ごみを20mLしぼるだけで、**年間約737トン※**の生ごみを減らすことができます。

※令和6年1月1日現在の世帯数100,917世帯 20mL × 100,917世帯 × 365日



「食品ロス削減」で生ごみ減量作戦

ごみを減らすためには、食品ロスを少なくしていくことも大切です。食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことを言います。中央区でも、家庭から出る燃やすごみのうち、使っていない食品がおよそ5%を占めており、食べ残しを含めれば、かなり高い割合の食品ロスがあると考えられます。

一人一人が「もったいない」の意識のもと、食べることが出来る量を買う、賞味期限・消費期限を正しく理解するなど、食品ロスの削減に努めましょう。

※賞味期限…未開封で保存方法を守った場合「おいしく」食べられる期限

消費期限…未開封で保存方法を守った場合「安全」に食べられる期限

「分別」で紙ごみ減量作戦

紙類はきちんと分別をすれば、その多くが資源として新しい製品に生まれ変わります。みなさんは、どんな紙が資源として出せるか知っていますか？



そのほかに燃やすごみと間違いやすい「雑紙」というものがあります。



「雑紙」とは、お菓子の入っていた紙箱やはがき・封筒、お店などでもらう紙袋やティッシュ箱などいろいろあります。

これらが、きちんと分別できれば、資源になり、ごみの減量につながります。みなさんもできるものから、分別を始めましょう。